

梶山女学園大家政 ○富田 明美
梶山 藤子

1. 被服地の立体観は、その材質、組織、加工、色、光沢などの諸要素と、照明方法、光源の明るさ、方向性、拡散性などの条件によって左右されるものと考えられる。

筆者らは現在色と光沢について研究中であるが、光沢は立体観にもっとも影響し、それは反射光の強さの方向による変化であると思われる。そこで今回は偏光現象の測定法を検討して被服地に応用し、その有無を調べると共に織物表面の微細な状態の変化を追究したいと考えた。

2. 試料は、材質および組織の異なった白色布8種と毛100%の材質を用いて、同一染料、同一浴、同一色に染色し、組織別、加工別、色別に整えた。実験は一定の角度で入射した正反射方向に進む光に偏光フィルターを通して写真撮影し、フィルムに現われた黒化度を分光光度計により測定した。その数値から偏光度を求め、照射角度による相違および織物の材質、組織、加工、色による変化を検討した。

3. その結果、被服地において偏光現象が起こることが明らかとなり、ことに光の照射角度による変化が現われた。また材質別、組織別、加工別、色別によりそれぞれ偏光度が異なり、このことは織物表面状態の微量の差

や色のあつものもの光沢などを検討する場合にも応用できると考えられる。